

(仮称)木口ユニバーサルセンター・芦屋市福祉センター 5月8日 建設工事がスタートしました

問い合わせ 福祉センター担当 ☎38-2126



福祉センター外観イメージ

この工事は、財団法人木口ひょうご地域振興財団が施工し、本市が施設の一部を有償で借用して、(仮称)芦屋市福祉センターとして運営するものです。
工事期間は、本年五月初旬から平成二十二年五月末までで、(仮称)芦屋市福祉センターは、平成二十二年七月オープン予定です。
(仮称)芦屋市福祉センターの位置付けおよび事業内容は、次のとおりです。

【位置付け】

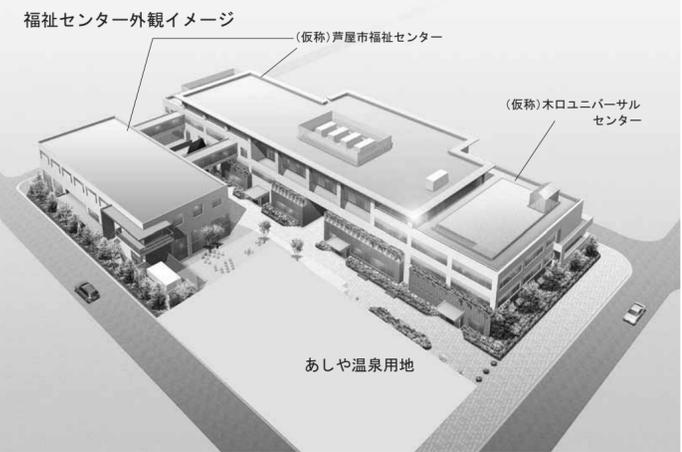
高齢者や障がいのある人の自立促進に向けた支援等、総合的な保健福祉サービスを提供する地域福祉の拠点と位置付けています。

市民の福祉の増進と高齢者や障がいのある人の自立促進を目指し、福祉に関する総合的な生活



【福祉センター機能・事業内容】

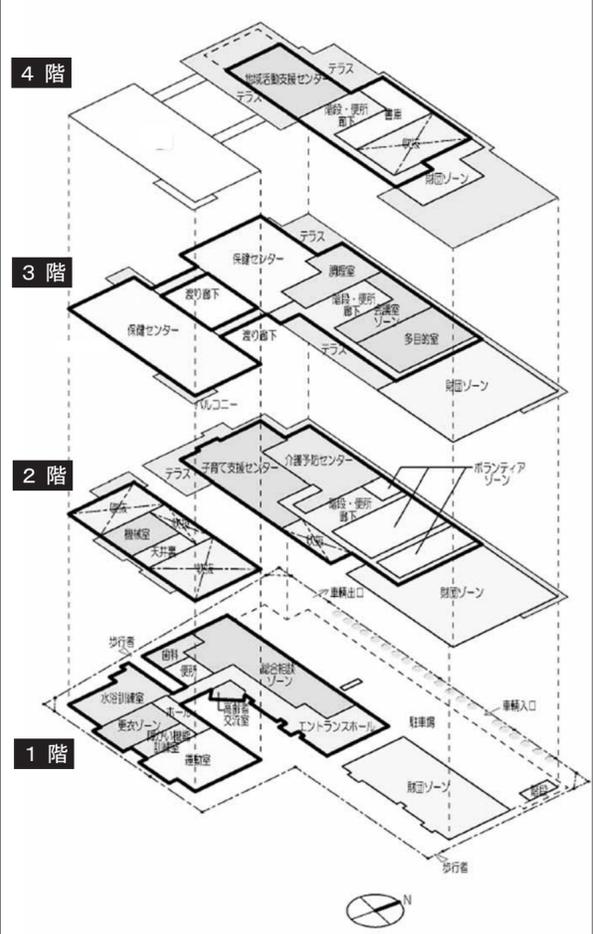
- 1階** 《総合相談》
高齢者、障がい者を対象とした総合的な相談支援
《障がい者機能訓練》
障がいのある子ども等を対象に行なう水浴訓練および機能訓練
- 2階** 《子育て支援センターなど》
子育て支援センター、学齢期児童の支援、家庭児童相談室、ファミリー・サポート・センターを配置
《介護予防センター》
すこやか教室、さわやか教室に関する事業
《ボランティア活動センター》
ボランティア活動の場の提供および活動支援
- 3階** 《保健センター》
現在、公光町にある保健センター機能
- 4階** 《地域活動支援センター》
現在、呉川町の芦屋メンタル・サポート・センターで行っている「自立支援法」に基づく事業



福祉センター外観イメージ (仮称)芦屋市福祉センター (仮称)木口ユニバーサルセンター
あしや温泉用地

【建築概要】
■構造 鉄筋コンクリート造・4階建 ■高さ 14.09m ■敷地面積 5,904.26㎡
■建築面積 4,007.93㎡ ■延べ面積(容積率対象面積) 9,210.15㎡
※この内、(仮称)芦屋市福祉センターの延べ面積は、約7,000㎡となります。

フロア別センター機能



芦屋病院 新・病院構想

問い合わせ 芦屋病院 ☎31-2156



芦屋病院 佐治 文隆 事業管理者

医療における「地産・地消」の実現を

芦屋病院といえば、私の印象の中では、あの阪神・淡路大震災の時に非常に活躍された、市民の命を守る拠点になった病院と記憶しています。しかし、現在、芦屋病院の経営状況はというと、非常に厳しいものがあります。その原因を解明して、少しでも早く経営状況を好転させるということが、事業管理者である私の使命であると考えています。
ただ、私は病院事業とは必ずしも経営だけではない、医療の質と経営の両面で評価されなければならないと考えています。経営だけではダメ、医療がいくら良くても赤字が膨らむ、黒字を出そうなどということば、公的な病院では非常に難しいです。そんなことを口にする気はありませんが、少なくとも赤字は少なくしながら、一方ではダメ、あくまで医療と経営は車の両輪であると考えています。なぜなら、私たちは良い医療を提供する事を目指さなければならぬ。経営のために医療を犠牲にしてはならないと考えています。そこで、どうしたら良いのかを考えなければならぬ。良い医療を提供するためには人も増やさなければならぬ。あるいは高度な医療を提供するためには新しい医療機器等も購入していかなければならぬ。でも、赤字が膨らむ一方では、人やモノを手に入れないと考えることはできません。この意味において、より良い医療と経営は表裏一体、不可分なものだと考えています。
黒字を出そうなどということば、公的な病院では非常に難しいです。そんなことを口にする気はありませんが、少なくとも赤字は少なくしながら、一方ではダメ、あくまで医療と経営は車の両輪であると考えています。なぜなら、私たちは良い医療を提供する事を目指さなければならぬ。経営のために医療を犠牲にしてはならないと考えています。そこで、どうしたら良いのかを考えなければならぬ。良い医療を提供するためには人も増やさなければならぬ。あるいは高度な医療を提供するためには新しい医療機器等も購入していかなければならぬ。でも、赤字が膨らむ一方では、人やモノを手に入れないと考えることはできません。この意味において、より良い医療と経営は表裏一体、不可分なものだと考えています。
私が市民の皆さんに申し上げたいのは、医療における地産・地消をお願いしたいということです。地産・地消というのは、芦屋病院が良いい医療を提供しようとする取り組みの中から、安全で安心の医療を作り出す、これがまさに「地産・地消」です。地産のほうは、市民の皆さんが芦屋の医療を積極的に使った方が、すなわち受診していただくという考えです。これが一番の「芦屋病院の活性化」につながるということになります。



芦屋病院 看護師による「よろず相談」

医療や身体介護の方法等について、無料相談を受けています。ご利用ください。

■日時 毎週火曜日・金曜日
午前10時～正午

■会場 市役所北館 玄関横のコーナー

■相談 芦屋病院看護師がお受けします

問い合わせ 芦屋病院 ☎31-2156

ミニ特集



芦屋病院 金山 良男 病院長

このたび事業管理者を迎え新しい芦屋病院の体制がスタートしました。これまで地域医療を支えてきた公立病院、特に芦屋病院のような中小規模の公的病院の運営が安泰であったことはこれまで一度もありませんでした。それでも職員の見合った工夫や努力に見合った成果を実感でき、それが次の原動力につながった時代が確かにありました。腫瘍内科やペインクリニックなどは、そのようにして、大病院に伍して、あるいは先んじて立ち上げたものです。しかし、昨今の医療政

策の動向は、このほか中小病院に厳しいものがあります。その大きな原因の一つは、やはり医師不足・看護師不足です。ピーク時の芦屋病院には三十二人の常勤医師が在籍していましたが、昨年までに二十一人に減少しました。その間、市民の皆さんにはご迷惑をかけたかもしれません。しかし、その一方で、基本的な総合診療機能を堅持すべく努力した結果、廃止に至った診療科はありますが、現在、社会問題化している産科・小児科、そして救急医療も維持しています。

◆五つの約束◆
基本診療機能をさらに充実させた
ハートニー医療を提供します
チーム医療 内部連携のスムーズさは、中小病院ならではの身上です。これからも、専門性と総合性を生かした診療体制を提供していきます。
二十四時間三六五日、安心・安全の救急医療を提供します
大都市といえども、救急体制は万全ではありません。芦屋病院では「断らない救急外来をモットーに、市民の皆さんの安全を守ります。」
関係機関との協力、共同で切れ目のない総合診療を提供します
かかりつけの先生との緊密な連絡

新体制のスタートにあたって



泌尿器科・歯科口腔外科については院内開設診療所に外来診療を委ねる形、いわゆる院内開業となりまして、入院対応は可能です。さらに、脳神経外科医の招聘、皮膚科医師の増員、神経内科外来の拡充など、むしろ外来診療機能を充実させていきます。
ここにきて、明るい展望も見られます。このたび、内科には血液内科・糖尿病内科のベテラン医師二人が着任し、大きなパワーアップが図られました。とはいえ、医療界の厳しい状況に変わりはありません。昨年度、芦屋病院では、診療機能の見直し、新時代